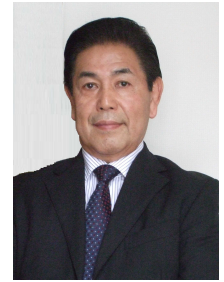


【クレア経済アドバイザーの視点】

クレアでは自治体の海外経済活動に対し、より効果的な支援を行うため、経済交流課に経済アドバイザー（商社 OB）を設置しています。

海外経済活動に必要な基本情報から、輸出入や海外でイベント、商談を行う際の注意点などの個別具体的なアドバイスまで、専門的見地からの助言を行っています。どうぞご活用ください。

毎月、小笠原経済アドバイザーの視点による注目情報をお届けします。



貿易における「ハラール」の重要性(その3)

交流支援部経済交流課

(前号より続く)

6.ハラール食品とは何か

ムスリム以外の人々にとって、ハラール食品やハラール認定のムスリム料理は特別な料理とのイメージを持ちがちであるが、決してそうではなく、非イスラム教国の人々も昔から楽しんでいる料理である。「フランス料理」、「中華料理」、「トルコ料理」は「世界三大料理」と言われるが、この中の「トルコ料理」がまさにイスラム世界の料理である。もちろんイスラム世界ではそれぞれの国の産物の特徴や文化によって「イラン料理」、「エジプト料理」、「ウズベキスタン料理」、東南アジアでは「インドネシア料理」、「マレー料理」などに分けられる。

このイスラム圏の料理は必ずイスラム教の戒律に従い、豚肉は食べず、羊、牛、鶏などが主な食材となる。



レストランで提供されるイラン料理

トルコ料理に代表されるイスラム料理は、それぞれの国の伝統料理で、どこの国のレストランでもそれらの料理を提供できるかと言えば、そうではない。イスラム教国に暮らすムスリムは、重要なイスラム教義に則った作法と許可された食事をしなければならない。すなわち、「ハラール食品」と言われる食品等の規格を管理する「ハラール認証」の管理下での食品でなければならない。ハラールという意味はアラビア語で「許可された」「容認された」「合法的」という意味である。具体的には、イスラム教の禁じる豚肉やアルコール等を含まない安全な食品等の規格を定め、製造・流通を審査し、適合製品・施設を認証し、これに表示をさせるものである。イスラム教の素養のない日本人にはなかなか理解しづらい概念だが、以下簡単に述べる。

「ハラール」とはイスラム法に基づき許されたものという意味であることは前述した。その反対の概念、つまり禁止されたものは「ハラム」と言われる。また、その中間の疑わしいものとして「シュブハ」という概念もある。イスラム教におけるハラール/ハラムに関する原則は以下の通りである。

- (1) アッラー（神）が創造したものは、特に禁止されたいくつかの例外を除き「ハラール」である。禁止された主なものは豚肉・犬、血液、正しい屠殺方法によらず死んだ

動物の肉、カマル（酒、アルコール飲料などの人を酔わせるもの）である。これらを禁止する基本的な理由は、それが不浄であり、害になるものだからである。理由については、明確なものもあれば曖昧なものもある。ただ、ここではそれを論点としない。それは、イスラム教徒はアッラーが禁止したのに関して、なぜ不浄なのか、どの様に害となるのかを問うてはならないとされているためである。

- (2) 禁止されるものである「ハラム」に由来する派生品も全て、「ハラム」となる。派生品の概念はわかりにくいだが、豚について言えば、豚肉だけが禁止されているのではない。例えば、ラード、皮、内臓、血液、骨、毛等、その他豚脂から製造される乳化剤、調味料、豚皮を原料とするゼラチン（菓子に多用される）やコラーゲン（化粧品に多用される）、内臓から抽出される酵素（食品製造プロセスに多用される）、豚の腸を使ったソーセージの皮なども該当する。



ハラール料理の食事風景

ゼラチンは乳化剤、発砲剤、安定剤に多く使われ、アイスクリーム、マシュマロ、ヨーグルト、ゼリーなどに含まれるが、加工食品であるため見た目ではほぼわからない。また、ゼラチンは豚皮からだけでなく、牛皮、牛骨、鶏皮、魚皮からも製造されるため、豚由来のゼラチンから製造されたものか簡単にはわからない。これらは「シュブハ（疑わしい）」とされる。疑わしきは避けるというのが原則である。ゼラチンは食べ物だけでなく、医療用、化粧品トイレットリー等にも使用されるが、今回はそれらに言及しない。

7. ハラール認証

ハラール認証とはイスラム教徒が「口にすることを許されたもの」であることの証明である。この認証は本来イスラム教徒の便益のためのものであるが、現在のように世界経済がグローバルに普及するようになり、ビジネスツールの一つとして利用が拡大してきている。すなわち、貿易手続きを行う上でイスラム圏向けの輸出用食品、化粧品等の商品になくなくてはならない書類の一つとなっている。

ただ、イスラム諸国のそれぞれの国が自国の国益のために、自国のハラール認証制度が優れていると主張しているため、世界的な統一基準の制定が遅れており、輸出者は輸入国の要求を確認する事が大切である。基準を満たせば認証されるという構造事態は「ISO」と同じなので、輸入国の要求する「ハラール認証取得」を十分に理解しておく必要がある。一般的には日本国内では「日本モスリム協会」に申請し、「ハラール認証」を取得することが一般的であるが、UAE 向けなどでは独自の認証を要求してくる場合がある。この場合も「日本モスリム協会」に問い合わせると良い。

各国のハラール証明団体が 2011 年に「WHFC」をインドネシアに設立し、現在、マレーシアイスラム開発局と連携して「ハラールに関する世界基準」を作成中である。しかしながら、各国の代表が自国のハラール認証制度に固執し、議論が収斂されていないのが実情のようである。